県政だより
アワーとくしま
OUR 徳島
平成29年1月号
No.367
発行：徳島県経営戦略部秘書課
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地 TEL088-621-2020 FAX088-621-2823
人口749,944人 男357,293人 女392,651人 世帯数307,717世帯［2016年11月1日現在］

スポーツと文化で夢と希望を未来へつなげる

昨年は南米初となるリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催され、日本はオリンピック過去最多となる41個のメダルを獲得。パラリンピックでも24個のメダルを獲得するなど、日本中が感動に包まれました。今回は、リオパラリンピック柔道銅メダリスト藤本聰さんと、次の東京オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムをデザインした野老朝雄さんを迎え、お話を伺いました。スポーツと文化、それぞれの分野で挑戦を続けるお二人の話を、皆さんの夢や希望を叶えるヒントにしてください。（文中敬称略）

徳島県知事 飯泉嘉門

「継続は信なり」を胸に3年後の東京パラリンピックでもメダル獲得を目指します。

リオデジャネイロパラリンピック柔道男子66キロ級 銅メダリスト **藤本 聰**さん

やりきる信念が自信につながる

■**知事** 金メダルをかけて臨まれたリオのパラリンピック、そして銅メダルへの思いを込めた3位決定戦を振り返っていかがでしょうか。

■**藤本** 本当に「よく銅メダルが獲れたな」というのが正直な感想です。3位決定戦では自分のためだけではなく、「ふるさとの皆さんに絶対メダルを持って帰って喜んでもらう」という気持ちで臨みました。何度か危ないシーンもありましたが、今までで一番価値があるメダルではないかと思っています。

●見事、銅メダルに輝いたリオパラリンピック。（写真：共同通信社）

■**知事** 藤本選手と同じように、40歳を越えて活躍されるアスリートが増えている印象があります。長年にわたって意欲を持ち続けられる秘訣はありますか。

■**藤本** 情熱はもちろん、あと一歩を踏み出す勇気が、すごく大事だと思います。北京で銀メダルを獲ってからリオまでの8年間は、母校の徳島商業でコーチの経験をするなど、自分の中ですごく成長させてもらった期間でした。その中で「継続は信なり」という言葉が浮かんだんです。続けるためには信念を持って一歩を踏み出す。「自分はこれをやりきる」という信念を持ちながら練習をしていると自信が生まれ、試合で試すことで確信に変わります。そして最後には、人から信頼されるようになるのだと感じています。

●パラリンピック5大会でメダルを獲得。

アスリートの育成環境も進歩

■**知事** メダリストによる東京でのパレードにも参加されましたね。

■**藤本** 平日のあの時間帯に、80万人もの方々が集まっていて本当に驚きました。徳島県の人口が約75万人ですから（笑）。バスの上から手を振っていると、いろんな方から「おめでとう」って声をかけていただいて。日の丸を背負うことの責任と重さをすごく感じました。

■**知事** 1996年のアトランタパラリンピックから5つのメダルを獲得してきた藤本さんですが、障がい者スポーツの環境について変わってきた部分はありますか。

■**藤本** 最近ではパラリンピックの管轄が厚労省から文科省へと移行され、柔道に関しては日本視覚障害者柔道連盟が全柔連の傘下になったことで、いろんな支援を受けられるようになりました。また、アトランタの時は公務員4名、自営業2名、そこに学生の私を加えた7名で参加しましたが、リオでは私を含む2名が公務員で、あとは企業に所属している選手でした。そういう意味では、周りだけでなく選手自身の環境も変わってきましたね。

ふるさと徳島の応援を力に変えて

■**知事** 3年後には、いよいよ東京パラリンピックが開かれます。藤本選手に続く選手の育成に向けアドバイスをお願いします。

■**藤本** 視覚障がい者柔道全体に言えることですが、まずは全国から若手を発掘する必要があると感じます。また、昔は自分のお金を持ち出して大会に参加していた時代もありましたが、今では助成金なども充実しています。ただ、若い世代の方はその恵まれた環境を当たり前だと思わず、感謝と謙虚な気持ちを持ちながら上を目指してほしいです。

■**知事** 最後に県民の皆さんへメッセージをお願いします。

■**藤本** 徳島に銅メダルを持って帰ることができて、本当によかったと思っています。講演の場でも、たくさんの方に銅メダルを見ていただくことができました。東京パラリンピックでも、郷土の代表として出場して金メダルを獲りたいと思っています。ぜひ応援をよろしくお願いいたします。

■**知事** 連続でメダルを獲得するのは簡単なことではありませんが、柔道界のレジェンドとなった藤本選手なら必ず成し遂げていただけるのではないかと期待しています。本日はありがとうございました。

●「東京パラリンピックでも、徳島代表として金メダルを獲りたい」と藤本さん。

■**藤本 聰**（ふじもと さとし）さん
1975年徳島市生まれ。徳島県立視覚支援学校教員。先天性の視覚障がいで左目はほぼ見えず、右目も矯正して0.1程度の視力。5歳で柔道を始め、1996年のアトランタパラリンピックで優勝。2000年シドニー大会、2004年アテネ大会と金メダルを獲得し、パラリンピック三連覇を達成。同年に県民栄誉賞を受賞。2008年の北京パラリンピックでは銀メダル、昨年のリオデジャネイロパラリンピックでも銅メダルと、通算5つ目のメダルを獲得した。

藍の美しい色彩と伝統美を備えた機能性にさらなる可能性を感じています。

アーティスト **野老 朝雄**さん

公式エンブレムに込めた思い

■**知事** 東京オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムに、野老さんが手掛けられた藍色の「組市松紋」が採用されました。デザインに込めた思いをお話いただけますか。

■**野老** 私はこれまでも「つながる」とか「つなげる」ことを主題としながらデザインを行ってきました。今回のエンブレムは正方形と細長いもの、その間の形という3つの要素で作っています。この基本形を活用することで、家紋のような独立したものも描けるし、ばらして紋様としてつなげていくこともできます。東京オリンピック・パラリンピックが終わった後も、生き続けられる強度があればいいなと思って作りました。

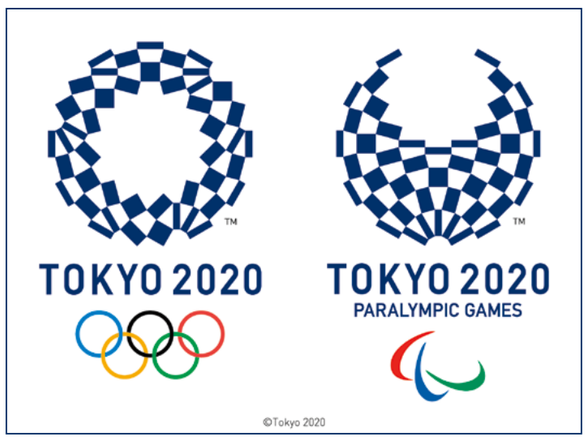
●アトリエでは「つながる」をテーマに作品を制作。

若者にも伝わる魅力づくりへ

■**知事** 県では「ジャパンブルー」と言えば阿波藍」ということで国内外へ発信しています。このエンブレムのカラーにも藍色が使われていますね。

■**野老** 当初はカラーバリエーションも考えていたのですが、特色としては「潔い単色」そして「日の丸が埋没しない色」を使った方がいいと判断しました。藍色は美しさだけでなく、機能的な意味も含めて日本が世界に誇れるものだろうと。浴衣などに使われている藍色を見ても、日本を象徴する文化の一つだと思います。

■**知事** 藍の魅力を未来へとつなげるためには、若い世代に魅力を伝え、新たな感性を加えていく必要があると考えています。



●野老さんが手がけた「東京オリンピック・パラリンピック公式エンブレム」。

■**野老** 自分の経験では「藍染めは高級品」というイメージが強く、藍染めの商品に接する機会がほとんどありませんでした。これからの藍の在り方を考えると、デパートや空港の土産物売り場以外での展開が求められるのかもしれませんね。個人的には、藍色だけの色鉛筆みたいなのがあったらすごくいいなって。薄い水色から濃いものまで、藍色だけしかない色鉛筆で絵を描いてみたいです。ほかにも、食用としての藍など、若者にも伝わる魅力が、藍そのものに備わっていると思います。

●藍染めのジャケットを着る野老さん。
「藍の可能性を、これからの作品づくりにも生かしていきたい」と話します。

徳島の魅力を藍に生かす

■**知事** 建築への造詣も深い野老さんですが、これからの藍の可能性についてアドバイスをいただけますか。

■**野老** 三好市東祖谷の落合集落にも行きましたが、道中では吉野川の流れに圧倒されたり、突然雲の中に入ったり。さらに徳島には海もある。薄い水色から濃い青まで、多彩な階調を持つ藍色を使えば、こういった景観や集落に何らかのアプローチを図ることもできるのではないかと思います。

■**知事** なるほど。移り変わる空の色や鳴門の渦など、景観を生かした活用法はいろいろとありそうですね。最後に今後の抱負についてお聞かせください。

■**野老** ぼくは東京の人間ですが「すくも」という言葉は、まだあまり全国に伝わってないかもしれません。生産過程も含めた素晴らしさを、もう一度皆さんと見つめ直しながら、何か一緒にできることがないかを考えていきたいと思っています。

■**知事** 藍の魅力を大変力強く語っていただき、本当にありがとうございました。今後ますますのご活躍を期待しています。

■**野老朝雄**（ところ あさお）さん
1969年東京生まれ。東京造形大学デザイン学科建築専攻卒業。9.11を契機に「繋げる事」をテーマに独学で紋様の制作を開始。2006年新日本様式100選に同氏のデザインが選出される。日本国際博覧会トヨタグループパビリオンや大名古屋ビルヂング下層部ファサードガラスパターンを手がけるなど多方面で活躍。2020年夏季オリンピック・パラリンピックのエンブレムに藍色の「組市松紋」が採用された。現在、東京大学工学部建築学科非常勤講師を務める。

ふるさと発見！ **あわっ子文化大使通信**
あわ文化を次の世代に伝承し、徳島の魅力を県内外に発信する中学生「あわっ子文化大使」のリポートです。

名東を救った袋井用水

●あわっ子文化大使リポーター
県立城ノ内中学校 森杉直翔（なおと）

今回、僕が紹介するのは、加茂名南小学校のそばにあり、桜の名所としても知られている「袋井用水」です。僕自身、5年生の時には総合学習でその歴史を学び、清掃活動にも取り組んできました。

袋井用水は、水源地が県の史跡に指定されている農業用水です。江戸時代に干害に苦しむ、旧島田・庄・蔵本の各村の農民を助けようと、楠藤吉左衛門（なんとう きちざえもん）が自分の財産を使って水源を掘り当て、その後も三代にわたって水路を拡大させ、そのおかげで、各村の農業生産は発展したといわれています。

袋井用水

楠藤吉左衛門石碑

そんな袋井用水も、一時は生活排水により汚染が進み、死んだ魚が浮いていたこともあったようですが、地元住民による「美しくする会」の活動により、今では少しずつ魚が戻り始めたそうです。昔はホタルも飛んでいたと祖母から聞かされた袋井用水。僕はそんな袋井用水を後世に残せるよう、また、吉左衛門の功績を伝えていけるよう、あわっ子文化大使としてできることからやっていきたいと思います。

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしています。
●教育文化課
TEL088-621-3163 FAX088-621-2886

野菜料理を+1（プラスONE）
野菜摂取量UPをめざして

たっぷり野菜のっけ丼

★野菜使用量133g エネルギー589kcal（1人分）

① にんじんはみじん切り、なすは1㎝大のサイコロ状に切り、レタスは一口大にちぎる。しょうがはすりおろす。
② 油を熱したフライパンに塩・こしょうをした鶏ひき肉、しょうが、にんじん、なす、ぶなしめじの順に入れ炒め、水100㏄で溶いたカレー粉と麺つゆを入れ煮立たせた後、レタスを入れ水溶き片栗粉でとろみをつける。
③ ②をごはんにかけ完成。

【材料（1人分）】
●鶏ひき肉（阿波尾鶏）50g ●なす、レタス各50g ●にんじん、ぶなしめじ各30g ●しょうが、塩・こしょう 少々 ●水溶き片栗粉適量 ●カレー粉、麺つゆ、油 各大さじ1

平成26年度「野菜たっぷり！ごはんにピッタリ！料理コンクール」応募作品より